

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

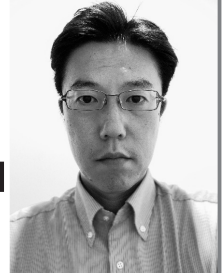
私は函館市出身で、岩手大学にて土木工学を学びました。土木施設に興味を抱いたのは、高校生の時に学校行事で訪れた笹流ダムがきっかけです。全国的にも珍しいバットレス式の構造を間近に見て、その独特の姿に強い印象を受けました。先日、タモリさんがブラリとするテレビ番組の中でこの笹流ダムが紹介され、タモリさんが構造の面白さに感心されている場面を拝見し、当時の感動がよみがえるとともに、少し誇らしい気持ちになりました。社会人となってからは、建設コンサルタントとして港湾施設の設計に携わってきました。初めの頃は日々の業務に追いつくのが精一杯でしたが、今でも BIM/CIM の活用やカーボンニュートラルへの取り組み、さらには気候変動を踏まえた設計など、新しい課題が次々と現れ、常に学びの連続です。大変さを感じることもありますが、自身を成長させる貴重な機会と捉え、前向きに研鑽を重ねています。このたび技術士資格を取得できたことは、これまでご指導くださった上司や同僚、そして支えてくれた家族のおかげであり、その期待に応えられるよう専門性を磨き、社会に還元していくことが新たな使命だと感じています。最近では、自分が設計に携わった施設で、小学生の子どもと一緒に釣りを楽しむ機会がありました。かつて図面上で検討していたものが実際に地域の暮らしに役立ち、自分の生活にも喜びをもたらしてくれる瞬間は、技術者として何よりのやりがいを感じる場面です。子どもはまだ設計という仕事を十分理解してはいませんが、いつか「父が携わった施設なんだ」と気付いてもらえる日が来れば嬉しいと感じています。これからも初心を忘れず、地域に根ざしたインフラづくりを通じて社会に貢献していきたいと思います。

澤田 裕介 (さわだ ゆうすけ)

●建設部門(港湾及び空港)

勤務先

北日本港湾コンサルタント
株式会社



→次号は、新谷ひかるさん(水産部門)

私は、潮風香る港町小樽で生まれ育ちました。幼少期は、近所の港へ行っては釣りをして、山へ行っては昆虫、ザリガニ採りに興じる生物大好き少年でした。生物への愛が止まらないまま成長し、1994年(平成6年)に北海道大学水産学部に入學し、その後、1998年(平成10年)に同じ北海道大学の大学院地球環境科学研究科生態環境科学専攻修士課程へ進みました。大学時代の研究テーマは、底生動物の個体群動態や種多様性であり、この頃から生物を扱う仕事ができたら幸せだなと思っていたところ、水産学部時代の恩師が私を推薦してくれるという良縁に恵まれ、修士課程修了後の2000年(平成12年)に北海道栽培漁業振興公社に入職しました。

入職後しばらくは、全道津々浦々、現地調査で出張三昧、まるで住所不定状態で目まぐるしくすごしていましたが、自身のスキルアップのため一念発起し、技術士二次試験受験を2010年(平成22年)から始めました。七転八倒の末、2016年(平成28年)に建設部門(建設環境)、2017年(平成29年)に水産部門(水産水域環境)に合格しました。

社内では、えりも以西海域・河川のシシャモ関連調査やサロマ湖のホタテ養殖許容量関連調査を主に担当しています。調査対象種は、いずれも北海道を代表する重要な水産有用種であり、現地調査を通じて、これらの動向をつぶさに知ることができるので、仕事のやりがいをひしひしと感じます。

最近、わが家では令和生まれの子ども達が「SDGs!」と叫びながら走り回っています。この情景を見るなり、技術士として、人の親として次世代の人材育成に最大限の力を注がなければなりません!!

藤井 真 (ふじい まこと)

●建設部門/水産部門

勤務先

公益社団法人
北海道栽培漁業振興公社



→次号は、菅原勇氣さん(水産部門)